

市民のひろば ~明るく元気ないわき市を目指して~

今月号から、明るく元気なまちづくりなどに取り組む市民の皆さんにスポットを当て、インタビューします。今月は、5月に本市で開催される、県内初の国際首脳会議「いわき太平洋・島サミット2015（第7回太平洋・島サミット）」の応援隊として活動する、磐城桜が丘高校の遠藤太郎さんです。



遠藤太郎さん（磐城桜が丘高校2年）

レポート⑫

Q 「いわき太平洋・島サミット二〇一五応援隊」になりたいと思ったきっかけは何ですか。

昨年の夏休みに、アメリカでのホームステイ研修プログラムに参加したことがきっかけで、国際社会の発展のためには、一つの国だけでなく、いろいろな国との協力が必要だと考えるようになったからです。

今回、太平洋・島サミットがいわき市で開催されると聞いたとき、参加する島国の皆さんと新たな関係が築けると思い、ぜひ協力したいと思いました。

Q これまでの主な活動内容を教えてください。

応援隊は、市内の高校生四十二人で活動しています。

二月に行われたサンシャインマラソン会場でのPR活動や、二十一世

紀の森公園で開催した百日前イベント、三月にアクアマリンパークで開催した二カ月前イベントの企画や当日の運営、FMいわきへの出演など、サミット開催への機運を高めるためのさまざまな活動を行いました。

また、現在はサミット本番に向けて、各国のファーストレディの皆さんへのおもてなしや、子どもたちも楽しめるようなイベントなどを企画し、準備を進めています。

Q 応援隊の活動を通じて感じたこと、伝えたいことなどをお聞かせください。

応援隊の活動は、一緒に活動する仲間や、多くの人たちの協力によってここまで進めることができました。



1月25日に開催した「いわき太平洋・島サミット2015応援隊」任命式

人と人がつながることの大切さ、一人では、一つの国ではできないことも、つながりがあればいろいろなことに挑戦できるし、成功へとつながることを、日本からどんどん発信していきたいと思っています。

Q 今後のいわき市の復興に向けて、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

「復興II大人が行うもの」だけではなくありません。いわき市でも多くの高校生が復興に向けてさまざまな活動を行っています。

決して大きな活動ではありませんが、高校生の立場で、高校生らしく活動することで、物だけではない心の復興にもつながっていききたいと思います。



いわきサンシャインマラソンではブースを設置してサミット開催をPR

いわきの五十年を振り返る

市庁舎

いわき市の合併は、合併対象の十四市町村の足並みが容易にそろわず、難航しました。市名こそ決まったものの、新市庁舎の位置や建設については、合併後に

決めることとして、昭和四十一年（一九六六）年十月一日に合併を果たしました。

新市庁舎を建設するまでの仮市庁舎に、すでに移転が済んでいた平商業高校の旧校舎を当てたのも、県の調停案に基づくものでした。

いわき市は平成二十八年十月に、市制施行五十周年を迎えます。今月号から、本市のこれまでの歩みを、市内各所の過去と現在の写真や、エピソードを交えながら振り返ります。

合併後のさまざまな調整が一段落した昭和四十七（一九七二）年、新市庁舎の位置は、平商業高校旧校舎の道路を挟んで西側、これも移転済みの平工業高校校舎跡地と決まりました。

もともと、この区域は平町が小学校と町民グラウンドを建設するために、土地取得をした場所でした。紆余曲折を経て、平中央公園とアリオス、市庁舎、県合同庁舎が並んでいます。

新市庁舎の落成式は、昭和四十八（一九七三）年三月のことでした。

（いわき地域学會 小宅幸一）



産業会館（現市社会福祉センター）から見る仮市庁舎（昭和44年3月、いわき市撮影）



現市庁舎を遠望。仮市庁舎があった場所は平中央公園として整備

※詳しくは市ホームページ「Facebook投稿シリーズ（いわきの今むがし）」をご覧ください。

こんにちは市長室から



明るく元気な故郷 いわき市を目指して

いわき市長 清水 敏 男

今月号から、私より直接、市民の皆さんにメッセージを送るため、このコーナーを新設させていただきました。

私は市長に就任以来「生まれ育った故郷を良くしたい」の一念で、東日本大震災からの一日も早い復旧・復興を第一に、全身全霊で市政のかじ取りを行ってまいりました。

現在、沿岸域では槌音高く工事が進ちよくし、被災された方々が入居する災害公営住宅

(1,513戸)は順次入居が進み、来年3月までには全て入居が可能となるなど、確実に、そして一步一步ですが復興は進んでおります。

また、お金と時間をかければハード面の復興は成されますが、市民一人一人の「心の復興」を成し得ることが大事と考えます。

そのために、私は、文化・芸術・スポーツ、そして歴史・伝統という「新たな力」を借りながら、市民の皆さんの心に元気と勇気を宿していくことが必要と感じています。

私は、つらく悲しい震災を乗り越え「明るく元気ないわき市」を目指すためには、市長の私自らが、常に明るく元気であることが大切であると考えます。「明るいところには人が集まります。」この言葉を念頭に、今後とも全力で頑張ってまいります。